

第30回 京都大学 リサーチ・アドミニストレーション研究会 「研究の社会的インパクトとは？」ワークショップを開催しました。

京都大学 学術研究支援室 人社系グループ

京都大学学術研究支援室（KURA）は、2019年5月21日、「研究の社会的インパクトとは？」『ケイパビリティ（潜在能力）』から考えるワークショップ』を第30回 京都大学リサーチ・アドミニストレーション研究会として開催しました。

研究成果の社会への還元、社会課題の解決、社会的インパクト、という言葉が日本でもよく聞かれるようになりました。しかし、人文学研究を含む多くの基礎研究において、社会への裨益をどう社会に伝えるかが課題となっています。資金配分機関の公募要領や、政策文書に書かれているキーワードに研究を寄せてアピールしていくことには、違和感があると感じる研究者も少なくないと思います。

Horizon2020をはじめ、多くの研究資金の申請書や研究評価において「研究の社会的インパクト」が強調されている欧州では、このインパクトに関する議論も進んでいます。欧州でのインパクト議論に詳しい哲学者で今回のワークショップ講師、エリクル・シグラソンアイスランド大学人文学研究科研究部長は、人文学が人の営みに関する学問である限り、人間の何らかの潜在能力を引き出すことにつながるとは考えられないだろうか、という発想から、哲学者ヌスバウムらが展開してきた「ケイパビリティ（潜在能力）」論を、研究の社会的インパクトに適用する研究を進めています。

講演では、書誌情報データに基づく数値指標による研究成果の管理・測定が、研究自体に及ぼす負の影響に触れつつ、そうした限界を乗り越えるものとしてインパクト評価が導入されたという背景がまず説明されました。そのうえで、最近注目されている「持続可能な開発目標（SDGs）」のもととなった国連の人間開発報告書（Human Development Report）や、ユネスコの社会的変革に関する一連のプロジェクトを紹介し、もともと人の営みを研究する人文学からこうした概念、プロジェクトが生まれてきたことを指摘しました。

<講師プレゼンスライドはこちら>

具体的な事例として挙げられたアイスランドにおける手話研究のケースは、2011年の新法でアイスランドの手話に口語と同じ地位が与えられることに繋がりました。これをきっかけに、これまでなかった「言語としての手話」に関する議論が展開されたり、自分の言語に誇りを持つ聴覚障害の学生が増えたり、手話が公共空間でもより受け入れられやすくなったという「インパクト」が紹介されました。

続くワークショップでは、3つのグループに分かれ、研究のインパクトについて議論。自分の研究を題材にして、誰・どのコミュニティの、どんなケイパビリティ（潜在能力）にインパクトを与えうるのか、それをどのように強化することができるのか、それぞれがストーリーを考え、グループ内で共有しました。議論をする中で、自分が考える潜在能力以外に思わぬインパクトの可能性が指摘されるなど、様々な気づきがありました。

以下は参加者からのフィードバックの一部です。

- ・インパクトに関する新たな視点（Nussbaum's 10 capabilities）を学んだことで、より広い視野でインパクトを考えることができるようになったと思う。
- ・研究の背景などを考える時に、自分（の分野のほとんどの研究者）は一つの側面からのインパクトしかアピールしていないなと感じました。
- ・現時点では、自分の研究はゴールが見えないので社会的インパクトもたまたまついてくるものだろうし、それを今の段階で語りすぎると自分自身の未来を縛るような気がしました。

この企画は、KURAの人文社会科学系研究支援プログラム担当、特に佐々木URAと次世代研究支援プログラムの仲野URAが中心となり、講師と数回にわたる企画会議を開催。ワークショップの構想作成、当日のファシリテーションを担当しました。KURAでは、7月にもインパクトに焦点を当てたセミナー、第6回 JINSHA 情報共有会「研究の発展につながる評価とは－研究評価の未来を洞察する－」を開催するなど、定量的な評価が難しいと言われる人文社会科学系研究において、研究の成果を可視化していく試みを継続していきます。

参考文献

マーサ C. ヌスバウム『女性と人間開発：潜在能力アプローチ』（岩波書店、2005年）

https://en.wikipedia.org/wiki/Capability_approach（Nussbaum's central capabilities）

ユネスコ・社会変革マネジメント

<http://www.unesco.org/new/en/social-and-human-sciences/themes/most-programme/humanities-and-philosophy>